

社会学部報

- ◇昭和52年4月27日 学部研究会 発表者 春日雅司
(大学院生)「イスラム封建制度に関する若干の考察—
ベッカー、ウェーバー、ヒンツェの所論を中心に—」
木下博道(大学院生)「疎外とアノミー」
- ◇昭和52年5月25日 学部研究会 発表者 中野秀一郎
教授「現代マレーシアに於けるいわゆるコミュニズ
ムと国家統合について」
- ◇昭和52年6月22日 学部研究会 発表者 小関藤一郎
教授「最近のフランス労使関係の動向」
- ◇小関藤一郎教授は去る6月3日 神戸フランス総領事
邸で国家功労(L'Ordre National du Mérite) シュ
ヴァリエ章を授与された。

海外出張

- 宮田満雄教授 昭和52年6月21日から7月15日まで第7
回世界 YMCA 同盟総会に日本代議員として出席のた
め、アルゼンチンへ。
- 杉山貞夫教授 昭和52年9月15日から9月26日まで国際
人間工学会連合理事会出席のため、イギリスへ。

会員の新著

- 萬成博教授 ロバート M. マーシュ教授「近代化と日
本の工場」昭和52年2月 東京大学出版会。
- 余田博通教授 「宝塚市史」(共著)宝塚市役所。
- 山路勝彦助教授 「日本民族と黒潮文化」(共著)角川書
店。
- 佐々木薫教授 「社会心理学」(共著)学苑社。
- 田中国夫教授 「新版現代社会心理学」(編著)昭和52年
7月 誠信書房。

学会消息

◇関西社会学会大会

関西社会学会第28大会は5月21、22日大阪市立大学で
開催された。本学からは余田博通教授が「

」について、佐々木薫教授が「紡績女子従
業員の定着意識の分析—数量化理論Ⅱ類を用いて—」に
ついて研究発表がなされた。また大学院生、木下博道君
は「疎外とアノミー」南育広君は「小農民経営と農民層
の分解」竹安栄子君は「古典荘園段階におけるドイツ農
民家族についての考察」についてそれぞれ発表した。

◇日本労務学会大会

日本労務学会第7回大会は5月28、29日本学部で開催
された。今回の大会は「日本的労務の再検討」を統一論
題としたが、開会の挨拶を小関藤一郎教授が行った後、
萬成博教授は「日本の企業における報酬体系の実証的考
察」について報告を行った。大会は萬成教授の閉会の辞
を以て終了した。

◇日本行動計量学会

日本行動計量学会は9月1日から3日まで、岡山大学
で行なわれた。本学からは海野道郎助教授が「分結指数
の検討」について発表を行なった。

◇日本社会心理学会第18回大会

日本社会心理学会第18回大会は去る9月10日、11日の
両日にわたって、お茶の水女子大学担当のもとに、東京
千代田区の東條会館(第1日)および文京区のお茶の水
女子大学校陰会館と同じく作楽会館(第2日)において
開催された。本学部からは次の研究発表がなされた。

佐々木薫教授「集団決定法の効果に関する現場実験
—献血行動について」

◇日本新聞学会

1977年度総会並びに春季研究発表会は、去る6月3日、
4日、甲府市山梨日日新聞社において開催された。個人
研究発表、課題研究発表「コミュニケーション理論の検
討」のほか、「地域社会とコミュニケーション」の問題
をめぐるシンポジウムが行われ、本学部からは津金沢教
授が出席、シンポジウムの討論に参加した。なお、今年
度総会で役員改選があり、津金沢教授は理事任期満了で
退任、新たに学会監事に選任された。

執筆者紹介 (掲載順)

倉田和四生	社会学部教授	嶋田津矢子	社会学部教授
萬成博	社会学部教授	高田真治	社会学部専任講師
ロバート・M・マーシュ	ブラウン大学 社会学教授	船本弘毅	社会学部教授
中野秀一郎	社会学部教授	森川甫	社会学部教授
海野道郎	社会学部助教授	春名純人	社会学部教授
田中国夫	社会学部教授	井上徹	社会学部大学院 博士課程3年
田淵創	社会学部大学院 修士課程修了	竹安栄子	社会学部大学院 博士課程2年
杉原方	社会学部教授		

社会学部研究会々員

会長	倉田和四生				
評議員	小関藤一郎	定平元四良	本出祐之		
	佐々木薫	津金沢聡広	紺田千登史		
会計監査	牧正英	張光夫			
書記	山口恭平				
普通会员	杉原方	余田博通	田中国夫		
	西尾朗	嶋田津矢子	萬成博		
	領家稔	杉山貞夫	半田一吉		
	武田建	青山秀夫	遠藤惣一		
	佐々木薫	森川甫	中野秀一郎		
	中山慶一郎	J・ジョイス	宮田満雄		
	船本弘毅	春名純人	村川満		
	西山美瑛子	村山冴子	真鍋一史		
	山路勝彦	海野道郎	山本剛郎		
	高田真治				

関西学院大学社会学部研究会々則

第1条 本会は関西学院大学社会学部研究会とよぶ。

第2条 本会は社会学および隣接諸科学の研究ならびに会員相互の親睦を計ることを目的とする。

第3条 本会は上記の目的を達するために次の事業を行なう。

1. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」の発行。
2. 研究会および講演会の開催。
3. 研究叢書の刊行。
4. その他本会の必要と認める事業。

第4条 本会の会員は次の3種とする。

1. 名誉会員本会の特に推薦するもの。
2. 普通会員本学社会学部専任の教授、助教授、講師、および助手。
3. 賛助会員以上の外申込のあったもの。

第5条 普通会員は年額14,400円、賛助会員は年額10,000円以上の会費を納めなければならない。納付済の会費は返還しない。

第6条 本会員および本会社会学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年額1,200円とする。

第7条 本会に次の役員をおく。

1. 会長（1名）は、社会学部長をもってあてる。
2. 評議員（6名）は、普通会員の中から互選し、本会の運営に当る。
3. 編集、会計、庶務の各委員は、評議員の中から互選する。
4. 会計監査（2名）は、普通会員の中から互選する。
5. 書記は、社会学部事務長に委嘱する。

第8条 本会役員任期は2年とする。重任を妨げない。

第9条 本会会計年度は4月1日に始まり翌年3月31日に終る。予算決算は総会の承認を得なければならない。

第10条 総会は毎年1回とし、本会の重要事項を議決する。臨時総会の開催を妨げない。

第11条 本会は事務所を本学社会学部におく。

第12条 本会会則の変更は総会の議決によらなければならない。

1977年12月25日 印刷

1977年12月27日 発行

編集発行人 倉 田 和 四 生
印刷所 尼 崎 印 刷 株 式 会 社
電話大阪(06) 481-0707
〒660 尼崎市北大物町25

発行所 関西学院大学社会学部研究会
西宮市上ヶ原一番町
関西学院大学社会学部内
電話(0798) (51)0912(代表)
(51)3512(直通)

KWANSEI GAKUIN

SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

No. 35

December 1977

The Study Association of Sociology Department
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY
Nishinomiya, Japan
